

田中クリニックニュース No.1 2012年3月13日

発行：医療法人仁善会 田中クリニック 田中 善

みなさん、こんにちは。これから1~2週間に1度、このニュースを発行し、みなさんのがん治療に役立つ最新情報をお届けしたいと思います。とくに重要な情報は別な方法でお伝えします。みなさんが希望をもって治療ができるようにサポートしていきたいと思えます。疑問点があればご質問ください。また取り上げてほしい話題などもご提案ください。よろしくお願いたします。詳細は、回診時にお聞きください。

今日の話題：1. 高濃度ビタミンCの点滴量は今のままで良いのでしょうか。

2. ビタミンDは、がんの発生、再発・転移の予防に大きな効果があります。

1. 高濃度ビタミンCの点滴量は今のままで良いのでしょうか。

リオルダンら (USA、Riordan Clinic、1997) は、大腸がん、膵臓がん、骨肉腫、黒色腫の細胞を培養液に入れたビタミンCの濃度を上げていくと、400mg/dl (4,000 μ g/ml) でほとんど生存できなくなることを確かめました。その結果から、どのようながんにおいてもビタミンCの血中濃度を4,000 μ g/ml にするように点滴するとがん細胞は死滅すると推測されます。抗がん剤もどんどん高濃度にすればがん細胞は死滅しますが、正常細胞も死滅してしまい人間は生きておれません。しかし、ビタミンCはかなりの高濃度を点滴しても毒性がないことが確かめられています。したがって、私たちはこの濃度以上にするように点滴量 (ビタミンC投与量) を決めていきます。私の今までの経験からビタミンC 60~75g でこの濃度に達することが多いようですが、体重、がんの大きさ、転移の程度、がんの活動性によっても変わってきます。経験上、がんが大きくて (転移も多くて)、進行が早くなっているほどビタミンC量が多くなる傾向があります。

私のクリニックのみなさんは、このビタミンC治療を始めるときに、15g、25g、50g と増やしていくときにビタミンC血中濃度を測定し、4,000 μ g/ml 以上になるように点滴量 (ビタミンC投与量) を決めてきました。最終的に60g になった方は、それが4,000 μ g/ml に達していることを確認して、それ以後はその量で週1~2回点滴されています。この点滴量はそのままいいのでしょうか。最初は3カ月後ぐらいに再度ビタミンC血中濃度を測定するのが良いでしょう。この高濃度ビタミンC点滴療法の効果が十分にあらわれてくるのが約3カ月後なので、その時点で測定してそのままの量で持続していくのか (安定していれば週2回から1回に減らしていきます)、増やした方がいいのか (抗がん剤や放射線療法をしている場合、またはがんの活動性が強い場合) などを決めていきます。それ以後も安定している場合でも3~6カ月に1回は測定する方が良いでしょう。知らないうちに血中濃度が下がっている可能性もあります。そのときはビタミンCの抗がん作用が少なくなっている可能性がありますので、一時的にでも点滴量を増やすことがあります。